

第51回小櫃地区文化祭を開催しました!

11月1日・2日、秋晴れの空のもと、第51回小櫃地区文化祭が開催されました。公民館にはたくさんの人が訪れ、展示やステージ発表、模擬店での買い物を楽しんでいました。にぎわった2日間の様子をご紹介します!



みんなの音が響いたステージ【小櫃小学校合唱部】



迫力の書道パフォーマンス【こども書道塾と昂組】



わたあめ作りに夢中!【ちょボラの会】



第238号

編集・発行

〒292-0451 ☎35-2488

君津市末吉128

小櫃公民館

小櫃の人口

男	2,210人(-5)
女	2,169人(-16)
計	4,031人(-21)
世帯数	2,031戸(+3)
(令和7年10月末(7月末比較))	

平和を考える 特別企画



1945年の終戦から80年目となる本年の文化祭では、「戦後80年のいま、平和を考える」をテーマに特別企画を開催しました。期間中は、君津地域の戦跡や戦時体験の証言をもとに、当時を追体験する資料紹介を行いました。

展示資料は、君津市内の公民館が共同で制作し、これまでに集積してきた証言や記録の全体像が見える内容となりました。特に戦時中の君津市域には、市街地を中心とした「軍需工場としての君津」(八重原工場や小山野地下工



ロビートークのようす

「平和を語る」を実施。18名が参加し、小櫃まるとる館

場」と、山間部を中心とする「疎開先としての君津」(小櫃では萬福寺と薬王院)という二つの役割があったことを紹介しました。

また、小櫃公民館独自の展示として「日本軍重爆撃機『呑龍』の墜落事故と慰霊碑」「米軍爆撃機B29の墜落と搭乗員埋葬」「萬福寺に残る艦載機『グラマン』の機銃掃射痕」「寺の梵鐘供出と農耕馬の動員」「世界平和を祈念した東京湾観音」宇佐美政衛氏」などのほか、地域住民の皆様からご提供いただいた貴重な資料を紹介しました。

動画「小櫃学—小櫃の戦跡」を視聴した後、特別企画展をじっくり観覧。さらに、戦時中の証言として、本紙第237号で紹介した喜多見徳治さん(箕輪)にお話をいただきました。また、君津市遺族会小櫃支部長の太塚健一さん(末吉)からは、現在の遺族会の活動などをご紹介いただきました。

その他にも、B29墜落時に落下した搭乗員の様子、終戦後シベリア(ウラジオストク)での抑留生活の後に帰国されたお兄様の話、展示品提供者からお父様が経験した軍隊生活や終戦後のスマトラ島での生活についてお話しいただきました。最後には、一人ひとりが感想や平和への想いを語り合いました。

文化祭1日目には、君津青葉高校の皆さんが出店。野菜や草花、パンの販売は、どれも行列ができるほどの人気でした。小櫃保育園の園児たちも、自分たちで育てたさつまいもを販売。「いらっしやいませ!」と元気な声で呼び込みをがんばっていました。

また、2日間を通して上総小櫃中学校の生徒12人がボランティアとして参加。模擬店の販売補助やカフェのサポート、自主出店コーナーの運営など、さまざまな場面で活躍しました。



中学生ボランティアの活躍

特別イベント おびつのおらが市

「みんなでつくるてづくり市場」をテーマに、「ちょボラの会」が企画した「おびつのおらが市」。小櫃地域や公民館に関わる方々から出店を募り、手作りののぼり旗も準備して当日を迎えました。

文化祭2日目、会場となった駐車場には10コーナーが勢ぞろい。軽トラの荷台を活用したクラフトテーブルバッグの販売、フリーマーケットでのハンドメイド品の販売など、どのコーナーも大盛況!

味楽園おびつ店様にもご協力いただき、野菜や果物を販売していただきました。

また、ロビーには自分で作るわたあめコーナーが登場。

子どもたちは、大きなわたあめを作って大喜び。大人の皆さんも「ちょボラの会」による挽きたてコーヒーを楽しみ、大人も子どもも笑顔あふれるひとときとなりました。



小学生企画
「レジキョーホルダーづくり」

地域の小学生・中学生たちが店主となり、手作りキーホルダーや小物づくりの体験コーナーを運営しました。準備から販売まで、力を合わせてがんばった子どもたちの声をご紹介します!

○保坂真衣さん

かざりつけや商品のおき方を工夫しました。お客さんがたのしく取り組んでくれたことがうれしかったです。

○吉田結実さん

お客さんにとって分かりやすいようにシールを貼って準備

○小高優衣さん

材料探しは大変だったけれど、全世代向けになるように工夫して材料を用意しました。友だちや、みんなが来てくれたおかげで大成功でした。

○手塚結菜さん

折紙で星を折るのが大変



中学生企画
「ゆめのほしづくり屋」

色んな人を買ってもらえたり、見てもらえてうれしかったです。最初は、あまり人が来なくて心配だったけれど、売り切れたのでよかったです。とっても楽しかったので来年もやりたいです。

○山田乃愛さん

だったけれど、全て売れてうれしかったです。みんな楽しそうに作ってくれてよかったです。



(スマイルエンジェル)
息の合ったダンスを披露



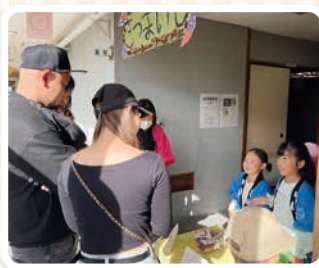
(青少年相談員)
白熱したかるた大会



(味楽園おびつ店)親子で楽しく
さつまいも詰め放題



(ピリアロハおびつ)
華やかな衣装で
フラダンスを披露



(小櫃保育園)元気いっぱい!
さつまいも販売

文化祭フォト特集

地域の皆さんが力を合わせて作り上げた文化祭。まっすぐに取り組む姿がいきいきと輝いていました。そんな瞬間を写真でご紹介します。

小櫃の動き

第49回小櫃地区
ふるさと祭り 9月14日(日)

君津市消防音楽隊による演奏と「小櫃まるごとクイズ」は、初めての取り組みで、子どもから大人まで多くの方が参加し、会場は大いに盛り上がりました。参加者からは、「盆踊りの時間がとても楽しかった」「地域のお祭り、すごくいいなと思いました」と笑顔の感想が寄せられました。

また、祭り当日には、能登半島地震及び豪雨災害の復興支援を目的とした募金活動が行われ、80,023円の寄付が集まったとのこと。

次回で50回の節目を迎える「ふるさと祭り」、来年もお会いしましょう！



みんなで盆踊り

白山神社秋季例大祭
9月28日(日)

秋の晴天のもと、俵田白山神社神楽保存会、三田青年会、西原睦会による神楽の奉納が行われました。

会場には多くの人が集まり、力強い舞が披露されると大人も子どもも目を奪われました。演舞のあとの餅まきでは大きな歓声が上がっていました。

神楽舞の様子
(三田青年会)上総小櫃中学校「学区
クリーン作戦」11月13日(木)

地域への感謝や環境問題への関心を高め、地域との交流を深めることを目的に、学区クリーン作戦が実施されました。

この日にあわせて、賀恵渚シニアクラブが道路脇の草刈りを行い、中学生も一緒に草取りや刈り取った草集めなどで協力しました。ほかにも、

学校周辺や駅周辺、通学路などで清掃活動を実施。「小櫃の元気な子どもを育てる会」のメンバーも参加し、地域の人と子どもたちが協力して活動する姿が見られました。



協力して道をきれいに

JAきみつ店舗
再編・統合のお知らせ

JAきみつでは、「経営改革・組織の再編成」の一環として、組合員・利用者へのサービス維持・強化に向けた改革を進めています。

この取組により、小櫃支店・久留里支店・亀山支店3店舗の統合が行われ、12月22日(月)から「上総小櫃支店」の営業を開始します。

店舗再編やお手続きの詳細については、JAきみつのホームページをご覧ください。
(内容はJAきみつ広報誌「みずき」より引用)

小学生の作文を
ご紹介

小櫃小学校の児童が「社会を明るくする運動」の一環として、作文を書きました。その中に、公民館を拠点に行われている「地域食堂」や「青少年相談員」を題材にした作品がありましたのでご紹介します。

いつか僕も

小川 陽介

僕は、今年夏休みに青少年相談員の人達とキャンプに行きました。家族以外の人とキャンプに行くのは初めてでとても楽しみにしていました。朝、公民館に行ってみると、

いろいろな人のための
地域食堂 田中 義人

ぼくの住んでいる地区の公民館で月に一回、地域のボランティアの人達が運営している食堂が始まった。地域の人が作っている農

産物をおすそ分けしてもらい、集まった食材でその日のメニューが決まる。クラスの友達が行くと言っていたので、どんなイベントなのか知らずに参加した。その日のメニューは、カレー・サラダ・デザートまであった。温かくてすごくおいしかった。ぼくは友達とたくさん話をしながら楽しく食べた。家の食卓とも学校の給食とも違う公民館の広い和室での食事……子どもたちは、身近な活動を通して地域のあたたかさや助け合う大切さに気づいています。ぜひ、全文を公民館ホームページでご覧ください。



おびつびと

「おびつびと」では小櫃地区在住の、特技や好きなことに取り組んでキラキラと輝いている方を紹介しています。
今回は、祖父の代から続く養鶏場を継ぎながら、観光ぶどう園「シャインの森」を立ち上げ、新しい試みに挑戦している鳥飼さんにお話を伺いました。

鳥飼 正平さん
(末吉)

「家業を継ぐ決意をしたきっかけ」

「鳥を飼う」鳥飼という名字に運命を感じて、おいしいたまごを作っています。ほかにも、お米や野菜を育てています。

子どものころから家業は手伝っていました。継ぐかどうか悩んだ時期もありましたが、大学時代に「自分たちがやらなければ、なくなってしまう」と、まずはやってみることを決意したのです。

「シャインの森」を始めたきっかけ

友人から「小櫃のどこかに、夏休みに子どもを連れて行ける場所はないかな」と聞かれたことがきっかけでした。冬はいちご狩りができるけれど、夏は遊べる場所がないので、家族みんなで楽しめる場所を小櫃に作りたと思いました。皮ごと食べられるシャインマスカット狩りなら、夏休みの

思い出づくりにぴったりだと思いました。

大変だったことは？

まったくノウハウがなく、手探りでスタートでした。昨年は暑さで不作でしたが、今年は逆に実がなりすぎてしまうほど。養鶏やお米づくりと並行していたので、時間のやりくりにも苦労しました。

それでも、試食をしたお客さんの「おいしい！」という反応や、「小櫃にこういう場所があつてよかった」という声に励まされています。

小櫃への想い

「素通りされる地域」ではなく、「寄り道したくなる地域」になってほしいと思っています。

農園の名前「シャインの森」には、今はまだ細い木々が育ち、やがて森を形成してほしいという願いを、「シャイン」は「輝く」という希望を込めました。とにかく小櫃を盛り

上げたいという思いがあります。

みんなに伝えたいこと

遊びに来て、楽しんで、少しでも農業のことを知ってもらいたい。そして、「自分もやってみたい」と思う人が増えたら嬉しいです。

誰かが挑戦して成功すれば、君津・小櫃でシャインマスカットがもっと広がるかもしれません。そんなきっかけを作っていけたらと思っています。



★紙面ではご紹介しきれなかったエピソードや写真をホームページで公開中！ぜひご覧ください。

小櫃まるごと博物館
「小櫃の水」

小櫃まるごと博物館「小櫃の水」の動画が、令和7年度全国自作視聴覚教材コンクール社会教育部門で入選しました。

コンクール受賞は令和5年度に「白山神社古墳」の動画に続いて2回目となります。審査員からは「房総の水利用の歴史や文化について、映像とナレーションで学ぶことができる映像教材である。地域の社会教育施設や資料館などで視聴できる資料映像としての利用価値が高い」と評価されました。

動画は公民館ロビーでの上映のほか動画配信も行っています。ぜひご覧ください！

地域づくり協議会
設立準備会

一緒に参加しませんか？
メンバーの声を
ご紹介します！

地域づくり協議会設立準備会では、月に1度の会議を重ね、目指す地域像実現に向けてのアイデアを話し合っています。前号に引き続き、参加している方の声をご紹介します。



グループで話し合いをする様子

小櫃に暮らして25年になりましたが、娘が支援学校へ通っていたため、PTAなどの活動基盤は君津市街でした。娘の育ちに触発され、社会人学生として社会福祉学を学んでいる私は、自身の暮らしの場である小櫃と、小櫃の皆さんとのことを改めて知りたいと思いました。ちょうどそのようなタイミングでこの準備会が開催され、「これは行かなきゃもったいない！」と思ったことが参加のきっかけです。

参加してみて感じたのは、「小櫃をより良くしたい」という小櫃の皆さんの地域愛の強さです。準備会には、暮らしの場をみんなで創造するワクワク感があります。

手ぶらで参加しても、これまでの話し合いの振り返りがあり、当日の目的も分かりやすい構成になっています。

編集後記

今年の夏は体温を超える記録的な猛暑が続きましたが、各地区ではさまざまなイベントが行われました。どの会場でも、暑さを吹き飛ばすように皆さんが楽しんでいる様子が印象的でした。

子ども連れの若い夫婦が、ふるさとのことを子どもたちに楽しそうに話している姿が目に残り、子どもの頃にみこしをかついだ思い出がふとよみがえりました。

来年のイベントも楽しみにしています。

(實)

詳細や、今後の日程は、こちらからご確認ください！

